目次

第一章　序論……1

第一節　「変文」の定義　1

一　はじめに

二　「変文」の範囲について

三　「変」の意味について

四　「語りもの」説と「読みもの」説について

第二節　高僧伝類からみた「変文」　16

一　『梁高僧伝』――初期の開導

二　『続高僧伝』――初唐時代の唱導と講経

三　『宋高僧伝』――開導の総合化

第三節　韻文資料からみた「変文」　29

一　変文の上演

二　唐詩四首の分析

三　小結

第二章　「変文」の押韻……38

第一節　音韻学的アプローチによる先行研究　38

一　音韻研究三種のあらまし

二　従来の研究の問題点

三　分析方法について

第二節　「変文」全体に共通する特徴　44

一　平声韻

二　上去声韻

三　入声韻

第三節　北宋時代以降の「中原音」との比較　50

一　止摂（支脂之微韻）と斉韻の通用

二　流摂（尤侯幽韻）唇音字と遇摂（魚虞模韻）の合流

三　佳韻牙音字の麻韻への合流及びその他

四　陽唐韻と江韻の通用

五　梗摂（庚耕清青韻）と曽摂（蒸登韻）の合流

六　真韻系列と寒韻系列について

七　入声韻に関する出韻

第四節　陽声韻を主とした各種語尾の通用　65

一　庚韻系統と止摂及び斉韻の通用

二　真韻系統と蒸登韻の混用

三　-n 語尾と-m 語尾の混用
第五節　小結　71

第三章　「変文」の平仄……74

第一節　平仄簡史、及び平仄の意味するもの　74
一　四声論から近体詩へ
二　仏典の押韻と平仄
三　仏典と「平―仄―仄―平」形式
第二節　「変文」の平仄遵守状況　87
一　平仄を厳守する作品
二　平仄をほぼ守っている作品
三　平仄をあまり考慮しない作品
第三節　「平―仄―仄―平」形式をとる変文について　96
第四節　小結　101

第四章　唐代韻文文学からみた「変文」……103

第一節　近体詩　103
一　近体詩の規則
二　「変文」との比較
第二節　歌行（七言古体詩）　112
一　歌行の定義と規則
二　「変文」との比較
三　小結
第三節　「変文」の形式が意味するもの　123
第四節　小結　139

第五章　結論……141

あとがき　143

参考資料　敦煌変文 全韻文の平仄及び押韻状況　-1- ～-394-
参考文献目録　Ⅰ～Ⅴ

附表：「敦煌変文」韻文分析総表